

研究室だより

人事

植田麦助教、四月一日付けで着任。
周香織助手、四月一日付けで着任。
石坂唯助手、四月一日付けで着任。

平成十九年度修士論文

屏風歌論——景物「滝」を中心として——

伊藤美香

「くつばなし」の意味・用法に関する研究

中村愛

敬語接頭辞「お」「ご」に関する研究——現代小説

9作品をデータとして

林恭子

(この記事は前号に掲載すべきところ、編集長のミスで本号になってしまいました。お三方に深くお詫びします)

大学院研究会開催

平成二十年度前期大学院文学研究科国文学専攻研究会

平成二十年七月二十六日(土)

午後二時～四時三十五分

本館三四六教室

向田邦子

——成熟期の作品での試み(『あ・うん』を中心に)

博士前期課程一年 山口みなみ

『風の又三郎』の生成——「さいかち淵」「種山ヶ原」

及び「風野又三郎」とのかかわりを中心に

博士後期課程二年 玉 鴿

廊下と階段の変奏 『三四郎』・『草枕』・『明暗』

博士後期課程二年 山本真由美

今回は博士前期課程一年生一名および博士後期課程二年生二名によって発表が行われた。三名とも、今号の『実践国文学』に論文が掲載されており、着実な研究成果の進展が伺われる。今後はそれぞれ、修士論文・博士論文へのステップとなることを期待したい。

卒論ゼミナール

池田三枝子ゼミ

九月十七日(水)～九月十八日(木) 奈良・京都

影山輝國ゼミ

八月二十日(水)～八月二十二日(金) 軽井沢実習所

佐藤悟ゼミ

八月十八日（月）～八月二十日（水）

箱根仙石原実習所

棚田輝嘉ゼミ

九月九日（火）～九月十一日（木）

軽井沢実習所

横井孝ゼミ

九月二日～九月四日

京都

夏期休業中に卒論ゼミ研究合宿が以上の日程で行われた。
なお、近藤みゆきゼミ・佐藤悟ゼミ・福嶋健伸ゼミ・牧野和夫ゼミおよび第二回池田三枝子ゼミは学内で研究指導が行われた。

〈編集後記〉

待ちに待った新助教が着任した。外部から採用した助教が三代続いた（初代はまだ「助手」の名であった）が、「二度あることは三度ある」の俗諺通り、三代目も優秀で諸事万端抜かりなく、まったく安心して編集事務を任せることができた。編集長としては大助かりで、このような幸せが長く続くことをひたすら祈るばかりである。

（影山輝國）

平成二十年度前期号にあたる第七十四号をお届けします。今号から、助教として『實踐國文学』編集のお手伝いをさせていただくこととなりました。西の果てまでその質の高さが音に聞こえた本誌の編集に携われるとは、思ってもいませんでした。至らぬ身ではありますが、誠心誠意努めたと思います。

（植田 麦）